

宮城・船形コロニー 新規受け入れ再開検討 知事示唆



宮城県の村井嘉浩知事は30日、県内最大の知的障害者施設「船形コロニー」(大和町)を初めて視察、職員らと意見交換した。村井知事は「地域生活を押し付けてはいけない。重い障害のある方が、それで幸せだろうか」と述べ、停止している新規入所者の受け入れの再開を検討する意向を示した。

入所者らと触れ合う村井知事=30日午後、船形コロニー

また、2010年を目標とするコロニーの解体計画の見直し

をあらためて示唆。04年2月に浅野史郎前知事が発表した「みやぎ知的障害者施設解体宣言」についても「刺激的で、施設を壊すと誤解を与えている。地域移行宣言でもよいのでは」と述べた。

村井知事は、コロニー内で重度の知的障害者が入所している「とがくら園」や、女性5人が入居するグループホーム「吉岡ホーム」(大和町)を視察。障害者の生活状況を確認した。

また、コロニー解体の見直しを求めている親の会「育成会」とも意見交換。育成会の高見恒憲会長は、独自アンケートの結果、地域移行した入所者の家族の86%もコロニー存続を要望しているとして「前県政にとらわれず、大胆に政策を変えてほしい」と訴えた。

船形コロニーは、県が県社会福祉協議会に運営を委託。2002年11月、県福祉事業団(現県社協)が入所者全員の地域移行を目指す解体宣言を発表し、新たな入所者募集を停止している。

2006年01月30日月曜日